

研修名 幼児教育・保育

平成30年6月15日（金）13：30～16：00

講演・ワークショップ「小学校との接続」

「アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの理解」

「保育所児童保育要録・園児指導要録について」

講師 鳴門教育大学大学院 木下 光二 氏



## 1 講演要旨

### 1) 事例より

#### ①遊びをつくる幼児期にふさわしい環境

- ・遊びが楽しいとみんなが集まってくる。そういう保育をしていくこと。
- ・共同的な遊び…誰かが見つけた遊びを共有していく。
- ・保育者が境界線をつくらないようにする。
- ・自然の中で遊びを見つけていく。

#### ②子どもの記録（エピソード）を残していく

- ・子どもの姿・ことばをそのまま記入し、遊びの中の学びをとらえていく。エピソードの中に、子どもの気づき・学びがある。保育者は、その気づき・学びを見逃さずにしなければならない。
- ・(例) 1ヶ月に1枚、一番感動したことを記入する。園内研で、みんなで読み合う。

### 2) 幼小接続について

#### ①小学1年生の姿を見て、担任の先生と、前担任の幼稚園の先生と、子どものとらえ方が違う。小学校の先生は、幼児期に学んできたことを知る必要がある。幼稚園・保育所の先生は、どのように育ってきたか、小学校の先生に伝えていく必要がある。

#### ②幼児は幼小接続で、何を学んでいるのか？

- ・「やってみよう」「おもしろそう」という気持ち。小学生の姿を見て学ぶことはたくさんある。一緒にかかわることで、楽しいと学んでいる。
- ・小学校へのあこがれの気持ちをもてる。

## 2 感想

事例を交えた話で、とてもわかりやすく、自分の保育を振り返る機会になりました。子どもが遊び込める環境・楽しいと思える環境とは、子ども達が、“自分からやってみよう”と思える環境だと思います。今、何に興味・関心があるのか、この季節に経験させたいことは何かをしっかりとらえ、伸び伸びと過ごせる環境づくりをしていきたいと思っています。

(記録 久御山町立みまきこども園分園 庄司 幸恵)